

本報告書は、教学マネジメント委員会が策定した「3 つのポリシー」に関するアセスメントポリシー（2022 年版）に基づいて、教学マネジメント委員会 IR 部門が 2021 年度の各種データを収集、分析、検証した結果をまとめたものである。収集した主なデータは、学則、キャンパスガイド、大学案内、入学者募集要項、ホームページ、授業評価（2021 年度前期・後期）、学生調査（2021.12 実施）、累積 GPA、成績評価、退学率、留年率等である。

総括編では、要約した所見（データに基づく事実の認識）を記載し、必要に応じてアセスメント（評価、解釈）とアクション（改善案）を記載した。アクションの立案に当たっては、私立大学等経常費補助金「教育の質に係る客観的指標」及び文部科学省の「改革総合支援事業評価基準」を参考にした。

#### 1. 今年度（2022 年度）の重点取組課題

重点取組課題	アクション	担当部署
建学の精神等の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神、教育理念、使命の関係を整理する。</li> <li>・学部学科の教育理念の要否を検討する。</li> <li>・「建学の精神」の説明文を作成して、大学のキャンパスガイドに掲載する。</li> </ul>	大学評議会
授業改善（1） 主体的学習の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への学生の積極的参加を促進する工夫を授業に取り入れる。</li> <li>・学生の積極性、主体的学習行動を促進し、教室を活性化する教育方法に関する FD を企画・実施する。</li> </ul>	FD・SD 委員会 学長企画室
授業改善（2） 学習時間の延長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業外の学習時間を増やす教育方法を工夫する。</li> </ul>	FD・SD 委員会 学長企画室
授業改善（3） 応用力・問題解決能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、応用力・問題解決能力を身に付けさせる工夫を行う。</li> <li>・授業の工夫を教員間で共有する方策（アクティブラーニング実践報告集の作成・共有など）を実施する。</li> </ul>	FD・SD 委員会 学長企画室
客観的学習成果の把握と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・客観的学習成果を測定するツールとして外部の標準化されたテストである「PROG」の位置づけを明確にし、教育改善の取り組みに活用する。</li> </ul>	教養教育委員会

## 2. ディプロマポリシー（DP）とカリキュラムポリシー（CP）の検証

### (1) DP、CP の策定・公表・周知

#### 1) DP・CP を策定している。

所見	・大学・短大及び各学部・学科で策定している。
----	------------------------

#### 2) DP は、各学部・学科の教育目標を具体的能力として適切に表現している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の構造は「大学短大の教育理念→学部学科の教育理念→大学短大の教育目的→学部学科の教育目的→学部学科の教育目標→大学・短大のDP→学部学科のDP」となっている。</li> <li>・教育理念は、「①建学の精神を掲げ、②教育基本法と学校教育法に則って、③〇〇に貢献できる人材を育成すること使命とする」という表現になっている。その内容は学則第1条の記載内容に基づいているが、形を整えるために言い回し（使命、目的などの使い方）を変えている部分がある。</li> <li>・ガバナンスコードでは、①建学の精神・教育理念を説明し、②それに基づく使命として記載しているが、その内容は現行の教育理念と同じである。</li> <li>・学部学科の教育理念は、大学及び学部・学科の教育目的・教育目標の記載と重複する部分が多く、表現も「・・・の能力を養う」など理念に相当しないものが多く含まれている。</li> <li>・教育目的は、学則第1条の記載内容に基づいて、育成する人材像を表現している。</li> <li>・教育目標及びDPは、教育目的に記載した人材が持つべき具体的な能力を箇条書きで表現しており、内容の整合性は取れている。</li> </ul>
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部・学科の教育目標とDPは具体的能力を記載しており、整合性が取れている。</li> <li>・建学の精神、教育理念、使命の関係が一貫していない。</li> <li>・全体の構造の中で、「学部学科の教育理念」の位置づけと記載内容が不適切</li> </ul>
アクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神、教育理念、使命の関係を整理する。</li> <li>・学部学科の教育理念の要否を検討する。</li> </ul>

#### 3) CP は、DP と整合性がとれている。

所見	・各学部・学科の開講科目のナンバリングとカリキュラムマップを作成する過程でカリキュラムの体系性（DP との関係）と順次性（学年進行）を検証し、適切であることを確認している。
----	--

#### 4) DP・CP を公表している。

所見	・DP・CP は、キャンパスガイド、大学案内、ホームページに掲載し、公表している。
----	---

#### 5) DP・CP を在学生に周知している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生調査の認知度に関する質問では、「よく知っている」と「少し知っている」と回答したものの割合が過去3年間徐々に増加している。 「建学の精神」41.1→50.5→51.9% 「DP」18.5→38.2→42.1% 「CP」24.6→48.1→53.4%</li> <li>・短大のキャンパスガイドには「建学の精神」の説明文が記載されているが、大学のキャンパスガイドには記載されていない。</li> </ul>
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の認知度は徐々に増加している。</li> <li>・大学のキャンパスガイドに「建学の精神」を学生にわかりやすく伝える説明文を掲載する必要がある。</li> </ul>
アクション	・「建学の精神」の説明文を作成して、大学のキャンパスガイドに掲載する。

## (2) 管理・運営体制

### 1) 教学マネジメント委員会に学外者及び学生が参加している。

所見	・2019年度に学外者・学生が参加した委員会を開催したが、2020年度以降は新型コロナウイルス感染症のため参加していない。
----	---

### 2) 教学マネジメント委員会を年2回開催している。

所見	・2021年度は、2回開催している。 第1回 5/6 2021年版アセスメントポリシーを作成 第2回 7/1 3つのポリシーに関するアセスメント報告書を作成
----	--

### 3) 履修単位上限（キャップ制）を設定している。

所見	・大学では、履修登録単位の上限設定及びGPA値による上限の緩和を設定し、キャンパスガイドに記載して学生に周知している。 ・短大では、キャップ制度について検討した結果、上限設定を導入しないことを決めている。
----	---

### 4) GPAを履修指導に活用している。

所見	・GPAの活用についてキャンパスガイドに記載して学生に周知している。 ・教務委員会において「GPAに基づいた学生指導について」を作成（2020年度）して学習指導を行っている。 ・2021年度は、GPAに基づいた学生指導の実施状況を把握するために学科ごとに「指導実施報告書」を作成し、教務委員会で集約している。 ・GPAを活用した学習指導に伴う成績不振・出席困難などの学生への面接方法に関するFD研修会（2022.3.2）を開催している。
----	---

## (3) 教育の実施

### 1) 全開講科目のシラバスを作成し、公表している。

所見	・毎年度、シラバス作成要領を作成し、実務経験、毎回の授業担当者、ナンバリング、予習復習の時間など記載が義務付けられている項目の記載方法に加えて、自学自習を促し、授業外学習時間を増やす工夫例を記載して周知している。 ・作成したシラバスは、ホームページで公表している。
----	---

### 2) シラバスの内容をチェックし、改善のための指導を行っている。

所見	・学部長・学科長・教務委員によるシラバスチェックを実施し、不備のあるシラバスの改善を指導している。 指導を行った授業科目数 96科目、教員数 53人 主な指導内容：予習復習の時間数、関連する科目欄、アクティブラーニング、ナンバリング等の記載もれ
----	--

### 3) 教員は、シラバスに基づいて授業を実施している。

所見	・学生調査では、「授業はシラバスに沿って行われている」という質問に対して、90%前後（90.4→87.7→91.6%）が「とても思う」と「思う」と回答している。 ・「シラバスは予習・復習の参考になっている」という質問に対して、「とても思う」と「思う」と回答している割合（71.7→73.6→78.2%）は年々増加している。
----	--

4) 教員は、適切な授業改善の手立てを実施している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生調査「授業の実施状況に関する質問」で「とてもそう思う」と「そう思う」と回答したものの割合 80%以上 「学生が理解しやすい授業方法を工夫している」 70～79% 「学生の理解度に合わせた授業を行っている」 「レポートなどの提出物に対してコメントをつけて返却している」 「学生の意見を授業改善に取り入れている」 60～69% 「授業中に質問しやすい雰囲気づくりをしている」</li> <li>・授業評価で得点が高かった項目 「この授業で学んだことは、あなたの将来の職業に役立つと思いますか」 「教材など、全体としてよく準備された授業でしたか」 「教員は学生の質問や疑問に適切に対応しましたか」</li> <li>・授業評価で得点が低かった項目 「質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか」</li> </ul>
アセスメント	・授業の準備、内容、教授方法など教員の教育活動に対する評価が高い反面、質問など授業への積極的参加に対する評価が低い。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への学生の積極的参加を促進する工夫を授業に取り入れる。</li> <li>・授業の工夫を教員間で共有する方策（アクティブラーニング実践報告集の作成・共有など）を実施する。</li> </ul>

(4) 主観的学習成果（到達度、満足度）

1) 学生は、主体的に学習している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生調査「積極性・主体的学習行動に関する質問」で「とてもそう思う」と「そう思う」と回答したものの割合 80%台 「授業のグループワークやディスカッションには、積極的に参加する」 50%台 「疑問に思ったことは、授業後、教員に質問に行く」 30%台 「疑問に思ったことは、授業中に質問する」</li> </ul>
アセスメント	・授業中に質問する学生が少ない。
アクション	・学生の積極性、主体的学習行動を促進し、教室を活性化させる教育方法に関する FD を企画・実施する。

2) 学生は、十分な学習時間を確保している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習時間 合計 8.9 時間/週（1 日当たり 1.2 時間） 「遠隔授業の受講と課題提出に費やした時間」1.9 時間/週 「対面授業の課題やレポート作成に費やした時間」4.6 時間/週 「資格免許取得のための時間」は 2.4 時間/週</li> </ul>
アセスメント	・授業外の学習時間は 1 日当たり 1.2 時間に留まっている。
アクション	・授業外の学習時間を増やす教育方法を工夫する。

3) 学生は、自己の成長を実感している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生調査「主観的学習成果に関する質問」で「かなり身に付いた」と「ある程度身に付いた」と回答したものの割合 90%以上 「相手の意見を丁寧に聞く態度」 80～89% 「専門分野の知識・技術」 「幅広い知識・技術」 「積極的に人とかかわる態度」 「物事を様々な視点から考える習慣」 「経験のないことでも積極的に挑戦する態度」 70～79% 「多様な知識・技術を総合して判断する力」</li> </ul>
----	---

	「現状を分析し、問題点や課題を発見する力」 「問題が生じたときに、適切に対処する力」 「物事を論理的に考える習慣」 「将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度」 「自分の意見をわかりやすく伝える力」	
大学の DP 区分	短大の DP 区分	学生調査の質問項目（下線は 70～79%の質問項目）
人への関心と学問の理解	知識・理解	「幅広い知識技術」 「専門分野の知識・技術」
柔軟な思考と表現力	汎用的技能	「物事を論理的に考える習慣」 「物事を様々な視点から考える習慣」 「多様な知識・技術を総合して判断する力」 「自分の意見をわかりやすく伝える力」 「相手の意見を丁寧に聞く態度」
知識の応用力と判断力	総合的な学習経験と創造的思考力	「現状を分析し、問題点や課題を発見する力」 「問題が生じたときに、適切に対処する力」
未知の領域に挑む意欲	態度・志向性	「経験のないことでも積極的に挑戦する態度」
地域に貢献する積極的な態度		「積極的に人とかかわる態度」 「将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度」
アセスメント	・自己評価が最も高かった項目は「相手の意見を丁寧に聞く態度」、もっとも低かった項目は「自分の意見をわかりやすく伝える力」であった。全般に知識・技術の獲得に関する評価が高く、応用力・問題解決能力に関する評価が低かった。	
アクション	・授業の中で、応用力・問題解決能力を身に付けさせる工夫を行う。 ・授業の工夫を教員間で共有する方策（アクティブラーニング実践報告集の作成・共有など）を実施する。	

#### 4) 学生は、自己の学習成果に満足している。

所見	・学生調査「満足度に関する質問」で「とても満足している」と「ある程度満足している」と回答したものの割合 90%以上 「保健室・心理相談など相談サービス」 「学生課・キャリアサポートセンターの窓口対応」 80～89% 「教務課の窓口対応」 「本学で学び身に付けたこと」 「教員と学生の一般的な人間関係」 70～79% 「本学での学生生活全般」 ・「本学での学生生活全般」の満足度は徐々に増加している。(71.3→74.5→78.6%)
----	---

#### (5) 客観的学習成果到達度

##### 1) 学生は、DP で想定している能力を身に付けている。

所見	・心理学科：自己評価式質問紙を作成し、評価を実施している。 ・看護学科：学習成果の到達度の測定について検討中である。 ・保育学科：学習成果評価シートを用いて DP ごとの GPA の平均値を算出し、学習成果を把握・分析している。 ・食物栄養学科：学習成果の要素について検討中である。 ・外部の標準化されたテストである PROG を実施しているが、実施結果を学習成果として教育活動にフィードバックできていない。
アセスメント	・各学科での取り組みは進んでいるが、PROG の実施結果を活用できていない。
アクション	・客観的学習成果を測定するツールとして外部の標準化されたテストである「PROG」の位置づけを明確にし、教育改善の取り組みに活用する。

2) 教員は、適切な成績評価を実施している。

所見	・成績評価の分布						
			秀	優	良	可	不可
	大学	2021年度	29.8%	34.2%	21.1%	14.0%	1.0%
		2020年度	26.5%	33.3%	23.2%	15.8%	1.1%
		2019年度	23.1%	33.2%	25.5%	17.2%	1.0%
	短大	2021年度	22.9%	32.3%	24.7%	19.0%	1.2%
		2020年度	22.2%	29.7%	27.0%	20.0%	1.1%
2019年度		17.1%	30.8%	29.7%	21.4%	1.1%	

4. アドミッションポリシー (AP) の検証

(1) AP の策定・公表

1) AP は、DP に記載している能力を身に付ける前提として求める学習成果を明示している。

所見	・全学科で、求める学習成果を明示している。
----	-----------------------

2) 学習成果は、「学力の3要素」に対応している。

所見	・全学科で、「学力の3要素」に対応している。
----	------------------------

3) AP を、公表している。

所見	・ホームページ、入学者募集要項、大学案内、キャンパスガイドに記載し、公表している。
----	---

(2) 選抜方法

1) 多様な背景を持つ学生を受け入れる入試区分を設けている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度入試より、学校推薦型入試（指定校、公募制）、一般選抜入試、総合型選抜入試、社会人特別入試、帰国子女入試、外国人入試などの入試区分を設け、多様な背景をもつ学生の受け入れに対応している。</li> <li>・短大では専門実践教育訓練給付制度の教育訓練施設として指定され、社会人学生を受け入れている。</li> </ul>
----	--

2) 各入試区分の選抜方法は、「学力の3要素」を多面的に評価する選考方法を採用している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選抜方法として学力試験、大学入学共通テスト、口頭試問、小論文、プレゼンテーション、面接、調査書などを採用し、入試区分ごとにこれらの方法を組み合わせて「学力の3要素」を総合的に評価している。</li> <li>・2021年度入学者募集要項より、各入試区分における選抜方法の組み合わせと「学力の3要素」の関係を一覧表にして掲載している。</li> </ul>
----	---

(3) 採点基準

1) 採点基準（ルーブリックなど）を作成している。

所見	・2021年度入試より、全学科で採点基準をあらかじめ作成している。
----	-----------------------------------

2) 採点基準は、各選考方法に対応する学力の到達度（学習成果）を評価するものになっている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの評価基準は、高校生活で学んだことは何か、高校生活で学んだことを入学後どのように活かすかについて発表し、その内容、発表方法、表現力を評価するものになっている。</li> <li>・面接の評価基準は、志望動機、積極性、協調性、責任感、表現力、コミュニケーション能力など観点を設定して質問項目を設定している。</li> </ul>
----	--

3) 採点者による極端なバラツキや偏りが無い。

所見	・採点データの収集・分析はできていない。
----	----------------------

(4) 入学前教育

1) すべての入試区分で、入学予定者に対して入学前教育を実施している。

所見	・全学科、すべての入試区分で入学前教育を実施している。 ・教務委員会において、各学科の入学前教育の実施内容、課題の提出・指導状況、工夫、問題点、成果、今後の改善案などを集約している。
----	--

2) すべての入試区分で、入学前教育の課題の提出を義務付けている。

所見	・全員に課題の提出を義務付け、全員の提出を確認している。
----	------------------------------

(5) 入学後の追跡調査

1) 入試区分別に、留年・退学の動向を把握している。

所見	・大学（2014～2018年度入学生の卒業時の動向） 福祉心理学科 退学率 10.2%、留年率 4.5% 入試区分別では B 日程と A0 社会人が多い。 看護学科 退学率 4.1%、留年率 8.5% 入試区分別では B 日程が多い。 ・短大（2017～2020年度入学生の卒業時の動向） 保育学科 退学率 5.7%、留年率 3.1% 入試区分別では A0 が多い。 食物栄養学科 退学率 4.7%、留年率 1.0% 入試区分別では推薦 I と A0 社会人が多い。
----	--

以上

2021年度3つのポリシーに関するアセスメント報告書（資料編）

I. 教育理念等の整理

1. 教育理念

(1) 大学・短大の教育理念

	現行（2019.12.9 大学評議会承認）	ガバナンスコード	学則
大学	<p>大学学園創始の理念である「<u>人間性の涵養と実学の重視</u>」を建学の精神に掲げ、<u>教育基本法及び学校教育法の趣旨に則って大学教育を施し、持続可能な社会の進展と福祉社会の実現に貢献できる人材を育成すること</u>を使命とする。</p>	<p>ガバナンスコード</p> <p>(1) 建学の精神・教育理念                      本学園開学創始者である香川昌子は、瀬戸内海沿岸の鉱工業地としてスタートした宇部村で、教育をもとめる若い年代に「人間性の涵養と実学の重視」という当時としては先進的な教育理念を掲げ、若い世代の教養と生活の向上を目指しました。その後、この志は確固なものとして次々と受け継がれていきました。この「人間性の涵養と実学の重視」が本学の建学の精神であり、教育理念として人間の過去、現在、未来をみつめて、人間性の根源を探り、自己啓発に努めること、学術を極めるに当たっては実学、実践面を尊重することを強調しています。</p> <p>(2) 建学の精神・教育理念に基づく使命                      ①宇部フロンティア大学（以下「大学」という。）                      「<u>人間性の涵養と実学を重視</u>」を建学の精神に掲げ、<u>教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り大学教育を施し、持続可能な社会の発展と福祉社会に貢献できる人材を育成すること</u>を使命とします。                      ②宇部フロンティア大学短期大学部（以下「短期大学部」という。）                      「<u>人間性の涵養と実学の重視</u>」を建学の精神に掲げ、<u>教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り短期大学教育を施し、文化の発展に寄与し、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人材を育成すること</u>を使命とします。</p>	<p>大学学則第1条                      宇部フロンティア大学（以下「本学」という）は、<u>学園創始の理念である「人間性の涵養と実学の重視」を建学の精神に掲げ、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り大学教育を施し、持続可能な社会の発展と福祉社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的とする。</u></p> <p>短大学則第1条                      宇部フロンティア大学短期大学部（以下「本学」という）は、「<u>人間性の涵養と実学の重視</u>」という建学の精神に基づき、<u>教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、人格の完成をめざし、一般教養を高めるとともに、専門の学術に関する高度の知識技能を授け、知的、道徳的及び応用的能力のある有為の人材の育成を目的とし、もって文化の発展に寄与し、世界の平和と人類の福祉に貢献することを使命とする。</u></p>
短大	<p>「<u>人間性の涵養と実学の重視</u>」という建学の精神に掲げ、<u>教育基本法及び学校教育法の趣旨に則って短期大学教育を施し、文化の発展に寄与し、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人材を育成すること</u>を使命とする。</p>		

(2) 学部・学科の教育理念（ガバナンスコードには記載せず）

大学院	<p>大学学園創始の理念である「<u>人間性の涵養と実学の重視</u>」を建学の精神に掲げ、<u>教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り大学教育を施し、持続可能な社会の進展と福祉社会の実現に貢献できる人材を育成すること</u>を目的とする。（大学の教育理念と同様）</p>
心理学部心理学	<p>現代社会における複雑化した諸問題を、心理学の視点から、総合的・横断的に、地域に密着した形で教育研究し、自らの力で課題を見出し、最適の解決方法を考え、実行する能力を涵養する。（大学の教育目的と同様）</p>
人間健康学部看護学科	<p>人間理解と生命の尊厳を基盤として、情操豊かな人間性と看護実践に関する総合的な能力を養う。さらに、社会の変化に対応できる広い視野を持ち、実践できる人材を育成することによって、人々の健康と福祉の向上に貢献する。また、実践・教育・研究を通して、看護学</p>



	の発展と看護の質の向上に寄与できる能力を養う。
保育学科	「人間性の涵養と実学の重視」という建学の精神に基づき、「礼節」「自律」「共生」を旨として自身を厳しく律しながら、保育・福祉・教育の視点から、専門資格の深い知識と技術を、子ども・保護者の側に立って活用し、考え、行動できる能力を養う。
食物栄養学科	「人間性の涵養と実学の重視」という建学の精神に基づき、「礼節」「自律」「共生」を旨として自身を厳しく律しながら、栄養と食の視点から、専門資格の深い知識と技術を、相手の側に立って活用し、考え、行動できる能力を養う。

## 2. 教育目的

### (1) 大学・短大の教育目的

	現行 (2019. 12. 9 大学評議会承認)	ガバナンスコード	学則
大学	<u>現在社会における複雑化した諸問題を、総合的・横断的に、地域に密着した形で教育研究し、自らの力で課題を見出し、最適の解決方法を考え、実行する能力を涵養することを目的とする。</u>	<u>現在社会における複雑化した諸問題を、総合的・横断的に、地域に密着した形で教育・研究し、自らの力で課題を見出し、最適の解決方法を考え、実行する能力を涵養することを目的とします。</u>	大学学則第1条 2 心理学部は、 <u>現在社会における複雑化した諸問題を、心理学の視点から総合的・横断的に、地域に密着した形で教育研究し、自らの力で課題を見出し、最適の解決方法を考え、実行する能力を涵養することを目的とする。</u> 3 看護学部は、 <u>現在社会における複雑化した諸問題を、「人間と健康あり方」の視点から総合的・横断的に、地域に密着した形で教育研究し、自らの力で課題を見出し、最適の解決方法を考え、実行する能力を涵養することを目的とする。</u>
短大	<u>人格の完成をめざして一般教養を高めるとともに、専門の学術に関する高度の知識技能を授け、知的、道徳的及び応用的能力を有する有為な人材の育成を目的とする。</u>	<u>人格の完成をめざし、一般教養を高めるとともに、専門の学術に関する高度の知識技能を授け、知的、道徳的及び応用的能力を有する有為な人材を育成することを目的とします。</u>	短大学則第1条 宇部フロンティア大学短期大学部（以下「本学」という）は、「人間性の涵養と実学の重視」という建学の精神に基づき、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、 <u>人格の完成をめざし、一般教養を高めるとともに、専門の学術に関する高度の知識技能を授け、知的、道徳的及び応用的能力のある有為の人材の育成を目的とし、もって文化の発展に寄与し、世界の平和と人類の福祉に貢献することを使命とする。</u>

### (2) 学部・学科の教育目的

	現行 (2019. 12. 9 大学評議会承認)	ガバナンスコード	学則
大学院	<u>人の心の問題を探求し、高度にして専門的な臨床心理学等の理論及び応用を教授研究するとともに、幅広い知識と実践能力を兼ね備え、社会の進展と人類の福祉に寄与・貢献できる「こころ」の専門家を養成し輩出することを目的とする。</u>	<u>人の心の問題を探求し、高度にして専門的な臨床心理学等の理論及び応用を教授研究するとともに、幅広い知識と実践能力を兼ね備え、社会の進展と人類の福祉に寄与・貢献できる「こころ」の専門家を養成することを目的とします。</u>	大学院学則第2条 本大学院は、 <u>人の心の問題を探求し、高度にして専門的な臨床心理学等の理論及び応用を教授研究するとともに、幅広い知識と実践能力を兼ね備え、社会の進展と人類の福祉に寄与・貢献できる「こころ」の専門家を養成することを目的とす</u>

人間社会学部	人々のニーズに応じた援助を医療・福祉・心理などの現場で展開できる幅広い教養及び高度な専門知識・技術、判断力をもつ人材を育成することを目的とします。	人々のニーズに応じた援助を医療・福祉・心理などの現場で展開できる幅広い教養及び高度な専門知識・技術、判断力をもつ人材を育成することを目的とします。	る。 大学学則第1条2の(1) 人間社会学部福祉心理学科は、人々のニーズに応じた援助を医療、福祉、心理などの現場で展開できる幅広い教養及び高度な専門的知識・技術、判断力をもつ人材の育成を目的とする。
心理学部	人々のニーズに応じた心理的实践を医療、福祉、教育、司法、産業などの現場で展開できる幅広い教養及び高度な専門知識・技術、判断力をもつ人材の育成を目的とする。	人々のニーズに応じた心理的实践を、医療、福祉、教育、司法、産業などの現場で展開できる幅広い教養及び高度な専門知識・技術、判断力をもつ人材を育成することを目的とします。	大学学則第1条2の(1) 心理学部心理学科は、人々のニーズに応じた心理的实践を、医療、福祉、教育、司法、産業などの現場で展開できる幅広い教養及び高度な専門的知識・技術、判断力をもつ人材の育成を目的とする。
看護学部	生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観、幅広い教養、豊かな人間性並びに看護の現象・事象に的確に対応できる高度な専門的知識・技術、判断力を備えた看護職者の育成を目的とする。	生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観、幅広い教養、豊かな人間性並びに看護の現象・事象に的確に対応できる高度な専門的知識・技術・判断力を備えた看護職者を育成することを目的とします。	大学学則第1条3の(1) 看護学部看護学科は、生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観、幅広い教養、豊かな人間性並びに看護の現象・事象に的確に対応できる高度な専門的知識・技術・判断力を備えた看護職者の育成を目的とする。
保育学科	保育と福祉、教育の視点から人々の健全な成長・発達に貢献できる人材の育成を目的とする。	保育と福祉、教育の視点から人々の健全な成長・発達に貢献できる人材の育成を目的とします。	短大学則第1条2 保育学科は、保育と福祉、教育の視点から人々の健全な成長・発達に貢献できる人材の育成を目的とする。
食物栄養学科	栄養と食の視点から人々の健康の保持・増進に貢献できる人材の育成を目的とする。	栄養と食の視点から人々の健康の保持・増進に貢献できる人材の育成を目的とします。	短大学則第1条3 食物栄養学科は、栄養と食の視点から人々の健康の保持・増進に貢献できる人材の育成を目的とする。

### 3. 学部学科の教育目標とDP

	教育目標	DP
人間社会学部	・募集停止のため作成せず。	1. 人への関心と学問の理解 様々な生活課題を抱えている人々および世界の人々に肯定的な関心を持ち、社会活動等を通じ、学問を深めることができる。 2. 柔軟な思考と表現力 柔軟にものごとを考え、人の意見をよく聴いたうえで自分の考えを主張できる。 3. 未知の領域に挑む意欲 地域社会および福祉や心理の現場において、新たな変化に怯まず、意欲的に対応する

		<p>ことができる。</p> <p>4. 知識の応用力と判断力 地域社会および福祉や心理の現場において、問題点を明らかにし、教養教育・専門教育で培った様々な知見を基に、解決に向けて働きかけることができる。</p> <p>5. 地域に貢献する積極的態度 ローカルな視点と同時にグローバルな視野をもち、地域に主体的に参加できる。</p>
大学院	<p>1. 人間と社会に対する無条件の肯定的な関心をもち、各分野での心理サービスに活かすことができる洞察力と謙虚さを育成する。</p> <p>2. 人間の心に対する理解を探求し、その心理支援スキルを法令遵守のもと臨床場面で実践する真摯な態度を涵養する。</p> <p>3. 各領域における心理臨床の専門業務に対する研鑽と臨床場面で遂行するための職業的倫理的な実践力を育成する。</p>	<p>1. 人間とその周囲に関わる洞察力 地域および世界の人々への肯定的な関心をもち、臨床心理学の専門知識や人間・社会・自然についての洞察を地域での心理サービスに活かすことができる。</p> <p>2. 人間の理解と支援における真摯な態度 深い人間理解と俯瞰的視野に立ち、人間の心と問題背景の理解に努め問題解決のための心理支援スキルを真摯な態度で修得し実践していくことができる。</p> <p>3. 職業的実践力 それぞれの地域や各専門領域において、心理面接・心理査定・地域支援・心理教育および臨床心理学研究など科学者一実践家モデルのもと心理臨床の専門業務を主体的に実践することができる。</p>
心理学部	<p>1. カウンセリングマインドを育み、さまざまな社会活動を通して心理学への理解を経験的に深める力を培う。</p> <p>2. 豊かな教養を身につけ、それを拠り所にした、自他を尊重するアサーティブな自己表現力を醸成する。</p> <p>3. 環境や社会の変化を受け入れる率直な態度ならびに、積極果敢に取り組む力を涵養する。</p> <p>4. 心理学の専門的知識に基づいて、多面的・多角的に考え、しなやかに問題を解決する力を育成する。</p> <p>5. 人々がよりよく生きるために、地域社会において、心理学を活用して多様な協働に取り組み、実行する力を育成する。</p>	<p>1. カウンセリングマインドと実践的理解の深化 様々な生活課題を抱えている人々および世界の人々に肯定的な関心を持ち、社会活動等を通じ、学問を深めることができる。</p> <p>2. 豊かな教養を拠り所としたアサーティブな自己表現 幅広い教養力で柔軟にものごとを考え、自分の考えも主張できる。</p> <p>3. 変化を受け入れ主体的に取り組む態度 地域社会や心理の現場において、新たな変化に怯まず、意欲的に対応することができる。</p> <p>4. 心理学的知見に基づいた多面的な問題解決力 心理学やその他の幅広い分野で得た知識を基にコミュニケーション能力やスキルを發揮して地域社会や心理の現場で問題解決に努める。</p> <p>5. 心理学を活用した地域社会における多様な協働力 心理学を活用して人々の笑顔につながるサービスを提供する心理の専門家やビジネスマンとして地域社会で活躍する。</p>
看護学部	<p>1. 人間を総合的に理解する態度を涵養する。</p> <p>2. 幅広い教養と倫理観に基づいて行動する力を育成する。</p> <p>3. 専門的知識に裏付けされた科学としての看護を実現できる力を育成する。</p> <p>4. 保健、医療、福祉等の他職種と協働・連携す</p>	<p>1. 人に寄り添う高い倫理観 生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観を持つことができる。</p> <p>2. 幅広い教養に基づく柔軟な思考力 幅広い教養を育むために、学問を探求し批判的思考力を持つことができる。</p> <p>3. 看護学を生涯学び続ける姿勢 看護の現象・事象に対応できる高度な専門的知識・技術を高める姿勢を持つことがで</p>

	<p>る力を育成する。</p> <p>5. 自ら学ぶ姿勢を身につけ、看護専門職として自己研鑽できる基礎を培う。</p>	<p>きる。</p> <p>4. 看護専門職としての高度な実践力 専門職としての確かな判断を行い、質の高い看護を提供する能力を持つことができる。</p> <p>5. 看護の視点から広く社会貢献する態度 グローバルな社会における看護の役割を広い視野で捉え、社会に貢献する態度を持つことができる。</p>
保育学科	<p>1. 人の成長と発達を総合的に理解する力を育成する。</p> <p>2. 子どもの人権を尊重し、子どもをとりまく環境を適切に整えるために必要な力を育成する。</p> <p>3. 保育者としての倫理観に基づき行動する態度を涵養する。</p> <p>4. 保育・教育の専門性に鑑み、自らの課題を探究する態度を涵養する。</p>	<p>1. 保育の基盤と社会的意義についての理解 保育の本質と目的について理解している。 保育に関する基本的知識を修得している。 子どもの成長と発達に関する知識を理解している。</p> <p>2. 保育者としての実践力の獲得 保育内容をふまえた基本的な表現技術を適切に用いることができる。 子どもへの適切なあそびや養護の技術が身についている。</p> <p>3. 保育・教育職としての意識と姿勢 チームワークを大切にし、他者と協調・協働して行動できる。 自身を振り返り省察し、ものごとを探究し続ける姿勢が身についている。</p> <p>4. 習得した知識・技能を用いた保育実践の総合的な展開 子ども一人ひとりの生活や発達過程に応じた援助を考えることができる。 保育者としての責任感と倫理観をもって行動することができる。</p>
食物栄養学科	<p>1. 栄養と食に関して幅広く理解する態度を涵養する。</p> <p>2. 専門知識に基づいた実践力・応用力を育成する。</p> <p>3. 人と協力し合い、質向上を目指し、学び続ける基礎を培う。</p> <p>4. 論理的思考力を身につけ、課題を解決できる力を育成する。</p>	<p>1. 幅広い学びに基づく知識と技能 人の生の営みが自然の恩恵の上に成り立っていることを理解し、自分以外の他者や自然に対して、感謝の気持ちを持つことができる。 栄養士として必要な「社会生活と健康」、「人体の構造と機能」、「食品と衛生」、「栄養と健康」、「栄養の指導」、「給食の運営」に関する専門教育科目の知識と技能が身についている。 食品の栄養成分や調理特性、機能性や安全性など食品に関する幅広い知識と技能が身についている。</p> <p>2. 栄養士としての実践力と応用力 栄養士として働くにあたって必要な技能と応用力(献立作成、調理及び給食管理など)が身についている。 対象者のライフステージや身体状況に応じた健康づくり支援をすることができる。 食品の流通や安全性、並びに食品成分の栄養特性や機能性などの食品に関連する基本的実験技能が身についている。</p> <p>3. 生涯学び続ける姿勢 人と積極的にコミュニケーションを図り、協力して作業に取り組み、計画を進めることができる。 食の専門家であり続けるために、生涯にわたって新しい知識と技能を身につけなが</p>

		<p>ら、自己の資質向上に努めることができる。</p> <p>4. 課題解決をする力</p> <p>幅広い専門教育科目を学習することによって得た知識や技能を基に、主体的な研究活動やフィールド調査に取り組み、その結果をまとめることができる。</p>
--	--	---

## Ⅱ. 学生調査 (2021年12月実施)

### 1. 基本属性

回答者数 361人、回収率 61.4%

学科構成 福祉心理学科 (3、4年) + 心理学科 (1、2年) 97人、看護学科 164人、保育学科 50人、食物栄養学科 48人、大学院 1人

学年構成 大学 1年生 30.7%、2年生 26.1%、3年生 26.8%、4年生 16.5%

短大 1年生 54.1%、2年生 45.9%、  
大学院 1年生 0.0%、2年生 100.0%、

### 2. 授業に関する質問

(1) 3つのポリシーの認知度に関する質問 (「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた割合 (%)) (全体は当年 (前年) (前々年) の割合を記載)

問4 建学の精神を知っている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	50.0	55.2	42.1	68.4	51.9 (50.5) (41.1)
看護学科	52.0	51.3	66.7	66.7	
保育学科	27.3	34.6			
食物栄養学科	45.2	47.4			
大学院		100.0			

問5 ディプロマポリシーを知っている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	43.3	44.8	27.8	47.4	42.1 (38.2) (18.5)
看護学科	42.0	46.2	54.9	29.2	
保育学科	33.3	48.0			
食物栄養学科	43.3	36.3			
大学院		0.0			

問6 カリキュラムポリシーを知っている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	53.3	48.3	42.1	68.4	53.4 (48.1) (24.6)
看護学科	46.0	57.9	68.6	54.2	
保育学科	50.0	46.2			
食物栄養学科	48.4	50.0			
大学院		0.0			

問7 アドミッションポリシーを知っている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	53.3	55.2	42.1	73.7	56.9 (53.0) (30.4)
看護学科	56.0	66.7	76.5	41.7	
保育学科	45.5	46.2			
食物栄養学科	58.1	42.1			
大学院		0.0			

(2) 授業の実施状況に関する質問 (「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた割合 (%)) (全体は当年 (前年) (前々年) の割合を記載)

問8 授業はシラバスに沿って行われている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	86.7	96.4	78.9	84.2	91.6 (87.7) (90.4)
看護学科	94.0	92.3	98.0	91.7	
保育学科	95.5	75.0			
食物栄養学科	93.5	100.0			
大学院		100.0			

問9 シラバスは予習・復習の参考になっている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	83.3	82.8	52.6	73.7	78.2 (73.6) (71.7)
看護学科	77.6	76.9	94.1	79.2	
保育学科	50.0	66.7			
食物栄養学科	83.9	89.5			
大学院		100.0			

問 10 学生が理解しやすいように授業方法を工夫している。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	73.3	82.8	73.7	89.5	81.0 (77.8) (79.8)
看護学科	86.0	74.4	90.2	83.3	
保育学科	77.3	75.0			
食物栄養学科	71.0	89.5			
大学院		100.0			

問 11 学生の理解度に合わせた授業を行っている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	70.0	75.9	68.4	78.9	78.4 (72.8) (75.0)
看護学科	86.0	74.4	84.0	83.3	
保育学科	68.2	70.8			
食物栄養学科	80.6	89.5			
大学院		100.0			

問 12 レポートなどの提出物に対してコメントをつけて返却している。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	76.7	72.4	63.2	73.7	75.2 (77.5) (62.3)
看護学科	96.0	66.7	69.4	66.7	
保育学科	63.6	78.3			
食物栄養学科	71.0	94.7			
大学院		100.0			

問 13 授業中に質問しやすい雰囲気づくりをしている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	60.0	67.9	68.4	78.9	67.4 (70.9) (65.5)
看護学科	69.4	64.1	66.7	62.5	
保育学科	50.0	66.7			
食物栄養学科	67.7	94.7			
大学院		100.0			

問 14 学生の意見を授業改善に取り入れている。

	1年	2年	3年	4年	全体 (前年) (前々年)
福祉心理・心理学科	53.3	79.3	63.2	84.2	73.0 (71.9) (65.0)
看護学科	80.0	79.5	67.3	75.0	
保育学科	68.2	66.7			
食物栄養学科	74.2	84.2			
大学院		100.0			

### 3. 主体的学習行動に関する質問

(1) 授業以外の学習時間 (1週間) に関する質問 (全体は当年 (前年) (前々年) の時間を記載)

問 15 授業の予習・復習のための時間

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	2.4	2.8	2.5	2.2	1.9 (5.2) (1.8)
看護学科	1.6	2.6	2.5	2.0	
保育学科	0.6	1.1			
食物栄養学科	1.4	0.7			
大学院		1.5			

問 16 課題やレポート作成に費やした時間

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	4.5	6.1	5.6	5.7	4.6 (5.4) (3.8)
看護学科	5.7	4.4	5.6	2.1	
保育学科	2.3	4.0			
食物栄養学科	4.3	2.3			
大学院		4.0			

問 17 資格・免許取得のための学習時間

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	0.6	2.8	3.4	1.9	2.4 (2.6) (2.5)
看護学科	1.6	1.9	2.1	9.9	
保育学科	1.2	1.7			
食物栄養学科	1.6	1.7			
大学院		1.5			

(2) 積極性・主体的学習行動に関する質問（「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた割合（%））（全体は当年（前年）（前々年）の割合を記載）

問 18 授業のグループワークやディスカッションには、積極的に参加する。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	69.0	75.9	72.2	94.7	83.7 (81.2) (75.3)
看護学科	94.0	84.2	88.2	87.5	
保育学科	90.9	69.2			
食物栄養学科	90.3	72.2			
大学院		100.0			

問 19 疑問に思ったことは、授業中に質問する。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	30.0	24.1	31.6	63.2	35.5 (37.7) (31.2)
看護学科	24.0	31.6	37.3	41.7	
保育学科	45.5	30.8			
食物栄養学科	38.7	50.0			
大学院		100.0			

問 20 疑問に思ったことは、授業後、教員に質問に行く。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	56.7	58.6	68.4	78.9	58.0 (57.0) (48.3)
看護学科	50.0	38.5	61.2	66.7	
保育学科	59.1	50.0			
食物栄養学科	56.7	78.9			
大学院		100.0			

4. 主観的学習成果に関する質問（「かなり身に付いた」と「ある程度身に付いた」を合わせた割合（%））（全体は当年（前年）（前々年）の割合を記載）

問 21 幅広い知識・技術

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	80.0	79.3	68.4	89.5	83.9 (79.2) (81.0)
看護学科	90.0	74.4	92.2	87.5	
保育学科	72.7	80.8			
食物栄養学科	93.5	84.2			
大学院		100.0			

問 22 専門分野の知識・技術

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	72.4	82.8	84.2	78.9	85.8 (83.7) (84.6)
看護学科	88.0	81.6	96.1	83.3	
保育学科	86.4	84.6			
食物栄養学科	87.1	94.7			
大学院		100.0			



問 23 物事を論理的に考える習慣

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	66.7	62.1	68.4	89.5	76.9 (74.9) (70.3)
看護学科	74.0	79.5	88.2	87.5	
保育学科	63.6	69.2			
食物栄養学科	83.9	84.2			
大学院		100.0			

問 25 多様な知識・技術を総合して判断する力

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	76.7	57.1	63.2	78.9	79.1 (78.4) (74.6)
看護学科	78.0	69.2	96.1	87.5	
保育学科	68.2	80.8			
食物栄養学科	93.5	84.2			
大学院		100.0			

問 27 問題が生じたときに、適切に対処する力

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	66.7	55.2	63.2	78.9	77.8 (73.4) (73.0)
看護学科	86.0	71.8	96.1	83.3	
保育学科	72.7	73.1			
食物栄養学科	83.9	78.9			
大学院		100.0			

問 29 相手の意見を丁寧に聞く態度

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	93.3	93.1	89.5	89.5	93.6 (90.7) (89.0)
看護学科	94.0	89.7	98.0	91.7	
保育学科	90.9	92.3			
食物栄養学科	96.8	100.0			
大学院		100.0			

問 31 経験のないことでも積極的に挑戦する態度

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	70.0	58.6	57.9	84.2	80.2 (75.9) (76.6)
看護学科	80.0	84.2	92.2	87.0	
保育学科	72.7	76.9			
食物栄養学科	93.5	89.5			
大学院		100.0			

問 24 物事を様々な視点から考える習慣

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	83.3	79.3	73.7	94.7	83.6 (80.4) (77.7)
看護学科	82.0	82.1	92.2	87.5	
保育学科	68.2	76.9			
食物栄養学科	93.5	78.9			
大学院		100.0			

問 26 現状を分析し、問題点や課題を発見する力

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	76.7	65.5	63.2	84.2	78.8 (78.1) (74.2)
看護学科	74.0	79.5	94.0	83.3	
保育学科	68.2	73.1			
食物栄養学科	90.3	78.9			
大学院		100.0			

問 28 自分の意見をわかりやすく伝える力

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	73.3	62.1	63.2	84.2	74.1 (68.2) (67.5)
看護学科	82.0	79.5	80.4	75.0	
保育学科	68.2	69.2			
食物栄養学科	73.3	57.9			
大学院		100.0			

問 30 積極的に人とかかわる態度

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	73.3	72.4	78.9	84.2	83.8 (79.7) (79.8)
看護学科	88.0	89.7	92.2	70.8	
保育学科	81.8	84.6			
食物栄養学科	86.7	89.5			
大学院		100.0			

問 32 将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	83.3	51.7	52.6	78.9	76.3 (76.0) (71.3)
看護学科	80.0	84.6	92.0	66.7	
保育学科	68.2	69.2			
食物栄養学科	76.7	84.2			
大学院		100.0			

5. 満足度に関する質問（「とても満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合（%））（全体は当年（前年）（前々年）の割合を記載）

問 33 教員と学生の一般的な人間関係

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	90.0	89.7	73.7	100.0	83.3 (82.0) (78.5)
看護学科	88.0	76.3	66.7	79.2	
保育学科	95.5	76.9			
食物栄養学科	87.1	94.7			
大学院		100.0			

問 34 教務課の窓口対応

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	93.3	89.7	89.5	89.5	89.3 (87.4) (77.5)
看護学科	90.0	94.7	86.3	83.3	
保育学科	76.2	80.8			
食物栄養学科	100.0	94.4			
大学院		100.0			

問 35 学生課・キャリアサポートセンターの窓口対応

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	90.0	96.6	94.7	94.7	91.3 (88.7) (86.1)
看護学科	87.8	92.1	94.1	95.8	
保育学科	90.9	65.4			
食物栄養学科	96.8	100.0			
大学院		100.0			

問 36 保健室・心理相談など相談サービス

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	90.0	96.6	89.5	94.4	93.6 (92.5) (88.4)
看護学科	94.0	89.5	98.0	91.7	
保育学科	90.9	88.5			
食物栄養学科	100.0	94.7			
大学院		100.0			

問 37 本学で学び身に付けたこと

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	90.0	85.8	63.2	89.5	86.9
看護学科	88.0	86.8	92.0	83.3	
保育学科	81.8	84.6			
食物栄養学科	93.5	94.7			
大学院		100.0			

問 38 本学での学生生活全般

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	80.0	79.3	63.2	94.7	78.6 (74.5) (71.3)
看護学科	82.0	71.8	80.4	70.8	
保育学科	66.7	57.7			
食物栄養学科	100.0	89.5			
大学院		100.0			

### Ⅲ. 授業評価

#### 1. 集計方法

- ・対象：2021年度開講科目（大学、短大、大学院）のうち、Google Classroom®により授業評価アンケートを実施し、回答があった科目を集計対象とした。  
 大学 142科目、回答数 のべ 4574件  
 大学院 7科目、回答数 のべ 25件  
 短大 80科目 回答数 のべ 3204件
- ・科目ごとの得点の計算方法  

$$\text{得点} = (\text{「とてもそう思う」人数} \times 4 \text{点} + \text{「そう思う」人数} \times 3 \text{点} + \text{「そう思わない」人数} \times 2 \text{点} + \text{「全くそう思わない」人数} \times 1 \text{点}) \div \text{回答者数}$$
- ・質問項目：2019年度の実績を踏まえて、質問項目を19項目から13項目に厳選した。

#### 2. 集計結果

##### (1) 大学

カテゴリー	質問	得点の 平均値	パーセンタイル		
			25%	50%	75%
シラバスに関する質問	シラバスは授業の目標・内容・評価方法を分かりやすく示していましたか。	3.41	3.25	3.41	3.55
	授業内容はシラバスに沿ったものでしたか。	3.41	3.27	3.45	3.55
授業運営に関する質問	教材など、全体としてよく準備された授業でしたか。	3.45	3.29	3.46	3.61
	この授業の全体としての難易度は適切でしたか。	3.30	3.10	3.33	3.50
	課題（レポート、予習、復習）の量は適切でしたか。	3.32	3.10	3.33	3.51
教員に関する質問	教員の授業の進め方は学生の反応や理解度・達成度を配慮したものでしたか。	3.36	3.18	3.40	3.54
	教員は学生の質問や疑問に適切に対応しましたか。	3.42	3.27	3.45	3.60
	教員は小テストやレポートなどを実施し、コメント等を返しましたか。	3.38	3.17	3.40	3.61
主体的学習態度に関する質問	この授業中の内容に興味を持って取り組みましたか。	3.40	3.25	3.41	3.54
	質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか。	3.22	3.00	3.25	3.45
	この分野や関連分野のことをもっと知りたいと思いましたか。	3.38	3.21	3.39	3.55
満足度に関する質問	この授業で学んだことは、あなたの将来の職業に役立つと思いましたか。	3.47	3.33	3.50	3.65
	この授業は総合的にみて満足でしたか	3.40	3.20	3.41	3.59

## (2) 大学院

カテゴリー	質問	得点の 平均値	パーセンタイル		
			25%	50%	75%
シラバスに関する質問	シラバスは授業の目標・内容・評価方法を分かりやすく示していましたか。	3.60	3.50	3.57	4.00
	授業内容はシラバスに沿ったものでしたか。	3.57	3.33	3.50	4.00
授業運営に関する質問	教材など、全体としてよく準備された授業でしたか。	3.69	3.50	3.60	4.00
	この授業の全体としての難易度は適切でしたか。	3.53	3.14	3.50	4.00
	課題（レポート、予習、復習）の量は適切でしたか。	3.54	3.25	3.50	4.00
教員に関する質問	教員の授業の進め方は学生の反応や理解度・達成度を配慮したものでしたか。	3.64	3.40	3.67	4.00
	教員は学生の質問や疑問に適切に対応しましたか。	3.66	3.42	3.67	4.00
	教員は小テストやレポートなどを実施し、コメント等を返しましたか。	3.50	3.25	3.33	4.00
主体的学習態度に関する質問	この授業中の内容に興味を持って取り組みましたか。	3.63	3.25	3.67	4.00
	質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか。	3.42	3.00	3.33	4.00
	この分野や関連分野のことをもっと知りたいと思いましたか。	3.58	3.00	3.57	4.00
満足度に関する質問	この授業で学んだことは、あなたの将来の職業に役立つと思いましたか。	3.78	3.60	3.86	4.00
	この授業は総合的にみて満足でしたか	3.57	3.33	3.50	4.00

## (3) 短大

カテゴリー	質問	得点の 平均値	パーセンタイル		
			25%	50%	75%
シラバスに関する質問	シラバスは授業の目標・内容・評価方法を分かりやすく示していましたか。	3.41	3.19	3.41	3.62
	授業内容はシラバスに沿ったものでしたか。	3.43	3.25	3.46	3.61
授業運営に関する質問	教材など、全体としてよく準備された授業でしたか。	3.44	3.17	3.46	3.65
	この授業の全体としての難易度は適切でしたか。	3.28	3.09	3.31	3.54
	課題（レポート、予習、復習）の量は適切でしたか。	3.36	3.16	3.36	3.53
教員に関する質問	教員の授業の進め方は学生の反応や理解度・達成度を配慮したものでしたか。	3.38	3.14	3.38	3.60
	教員は学生の質問や疑問に適切に対応しましたか。	3.44	3.19	3.42	3.66
	教員は小テストやレポートなどを実施し、コメント等を返しましたか。	3.40	3.14	3.42	3.62
主体的学習態度に関する質問	この授業中の内容に興味を持って取り組みましたか。	3.38	3.22	3.37	3.57
	質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか。	3.22	3.04	3.23	3.42
	この分野や関連分野のことをもっと知りたいと思いましたか。	3.31	3.07	3.29	3.50
満足度に関する質問	この授業で学んだことは、あなたの将来の職業に役立つと思いましたか。	3.43	3.27	3.41	3.63
	この授業は総合的にみて満足でしたか	3.42	3.21	3.41	3.62

#### IV. シラバスチェックの実施状況

- ・シラバスチェックを学部長、学科長、教務委員に依頼
- ・実施状況を報告してもらい集計

区分	チェックリスト		心理	人社	大学院	看護	保育	栄養	合計
授業概要	<input type="checkbox"/> 授業概要を記載している。	記載していない科目数	0	0	0	0	0	1	1
	<input type="checkbox"/> 実務経験を記載している。(該当する科目のみ)	記載している科目数	1	0	14	64	18	11	108
到達目標	<input type="checkbox"/> ナンバリングを記載している。	記載していない科目数	14	0	7	0	7	4	32
	<input type="checkbox"/> 学修の到達目標を記載している	記載していない科目数	0	0	0	0	0	0	0
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 成績評価方法・基準を記載している。	記載していない科目数	0	0	0	0	0	0	0
	<input type="checkbox"/> 出席点を評価点に加えていない。	加えている科目数	7	1	3	0	0	0	11
授業計画等	<input type="checkbox"/> 複数担当の場合、毎回の授業に担当者を記載している。	記載していない科目数	2	0	2	0	4	4	12
	<input type="checkbox"/> 毎回の授業に予習・復習の具体的内容及びそれに必要な時間を記載している。	記載していない科目数	9	1	5	24	0	12	51
	<input type="checkbox"/> アクティブラーニングの欄に記載している。(PBL(問題基盤型学習)、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク、小テストなど)	記載していない科目数	7	1	4	4	1	5	22
	<input type="checkbox"/> 授業外学習欄に記載している。	記載していない科目数	9	1	5	0	1	2	18
	<input type="checkbox"/> テキスト、参考書、教材欄に記載している。	記載していない科目数	2	0	0	0	1	0	3
	<input type="checkbox"/> 関連する科目欄に記載している。	記載していない科目数	23	1	1	0	5	2	32
	<input type="checkbox"/> 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法を記載している。	記載していない科目数	6	0	3	0	0	2	11
・チェックリストによる点検結果に基づいて指導を行った教員数			24	2	8	6	8	5	53
・チェックリストによる点検結果に基づいて指導を行った授業科目数			40	2	18	16	13	7	96

V. GPA の分布

	1年 平均値	2年 平均値	3年 平均値	4年 平均値	全体平均値 (昨年)	パーセンタイル		
						25%	50%	75%
福祉心理・心理学科	2.77	2.73	2.92	2.95	2.82 (2.86)	2.44	2.95	3.41
看護学科	2.74	2.80	2.72	2.50	2.69 (2.60)	2.29	2.75	3.12
保育学科	2.38	2.38			2.38 (2.39)	1.85	2.42	2.87
食物栄養学科	2.79	2.71			2.76 (2.53)	2.33	2.74	3.20

VI. 成績評価の分布

		秀	優	良	可	不可
大学	2021年度	29.8%	34.2%	21.1%	14.0%	1.0%
	2020年度	26.5%	33.3%	23.2%	15.8%	1.1%
	2019年度	23.1%	33.2%	25.5%	17.2%	1.0%
短大	2021年度	22.9%	32.3%	24.7%	19.0%	1.2%
	2020年度	22.2%	29.7%	27.0%	20.0%	1.1%
	2019年度	17.1%	30.8%	29.7%	21.4%	1.1%

VII. 国家試験合格率

	看護師	保健師	社会福祉士	精神保健福祉士
受験者数	61	8	3	2
合格者数	52	7	2	2
合格率 (%) (昨年)	85.2 (88.3)	87.5 (100.0)	66.7 (60.0)	100.0 (100.0)

VIII. 選抜方法

1. 選抜方法と学力の3要素

(1) 大学 (2022年度入学者募集要項)

	入試区分	選考方法	学部が求める知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度・協働性など
学校推薦型選抜	指定校	プレゼンテーション		○	
		面接			○
		調査書	○		
	公募制Ⅰ期 公募制Ⅱ期	小論文		○	
		面接			○
		調査書	○		
一般選抜	A日程 B日程	学力試験	○		
		面接		○	○
		調査書	○		
		小論文	○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期、中期、 後期	大学入学共通テスト	○		
		調査書	○	○	○
総合型選抜		プレゼンテーション		○	
		面接			○
		調査書	○		

(2) 短大 (2022年度入学者募集要項)

	入試区分	選考方法	学部が求める知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度・協働性など
学校推薦型選抜	指定校	口頭試問	○		
		面接		○	
		調査書	○		○
	公募制	小論文	○	○	
		面接		○	
		調査書	○		○
一般選抜	A日程 B日程	学力試験	○		
		面接		○	
		調査書	○		○
総合型選抜		プレゼンテーション	○	○	
		面接		○	
		調査書	○		○

## IX. 入学後の追跡調査

### (1) 退学率、留年率（卒業時の集計）

- ・大学：2014～2018年度入学生
- ・短大 2017～2020年度入学生（C日程は2017～2019年度入学生）

#### 1) 福祉心理学科

	香川	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	センター	A0	A0社会人	計
入学者数	0	62	8	4	30	5	29	15	4	157
退学者数	0	8	0	0	4	1	1	1	1	16
退学率	-	12.9%	0.0%	0.0%	13.3%	20.0%	3.4%	6.7%	25.0%	10.2%
留年者数	0	1	0	1	2	0	2	0	1	7
留年率	-	1.6%	0.0%	25.0%	6.7%	0.0%	6.9%	0.0%	25.0%	4.5%

#### 2) 看護学科

	香川	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	センター	A0	A0社会人	計
入学者数	1	115	38	13	92	19	88	19	2	387
退学者数	0	5	2	0	2	2	4	1	0	16
退学率	0.0%	4.3%	5.3%	0.0%	2.2%	10.5%	4.5%	5.3%	0.0%	4.1%
留年者数	0	13	3	1	6	3	4	3	0	33
留年率	0.0%	11.3%	7.9%	7.7%	6.5%	15.8%	4.5%	15.8%	0.0%	8.5%

#### 3) 保育学科

	香川	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	C日程	A0	A0社会人	計
入学者数	92	80	31	3	6	3	20	25	2	262
退学者数	4	4	3	0	0	0	0	4	0	15
退学率	4.3%	5.0%	9.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.0%	0.0%	5.7%
留年者数	0	2	2	1	0	0	0	3	0	8
留年率	0.0%	2.5%	6.5%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	12.0%	0.0%	3.1%

#### 4) 食物栄養学科

	香川	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	C日程	A0	A0社会人	計
入学者数	55	79	11	3	6	11	10	11	5	191
退学者数	3	2	2	0	0	1	0	0	1	9
退学率	5.5%	2.5%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	20.0%	4.7%
留年者数	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
留年率	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	1.0%



X. 就職率 (2020 年度卒業生)

	人間社会学部	人間健康学部	保育学科	食物栄養学科
就職率	100%	100%	100%	100%